

潮だまりの生き物たち  
姿、形に  
ふれよう、学ぼう



どこにいるかな?



なにがいるかな?



潮だまりってなに?

# 磯や潮だまりを探検しよう

## Exploring Tide Pools

みなさん。こんにちは。  
トランクをあけると、そこは磯の潮だまり。  
いろいろな磯の生き物たちの標本に触れ、感じ、  
姿、形を確かめてみてください。



# 海辺を探検しよう

Exploring Beach

## 海辺ってどんなところ？

海辺には、磯や砂浜、干潟などがあります。そこでは、海の中とは違った生物をみることができます。

### 磯の海中

海底は少し深くなっていて、岩場になっています。

### 磯の海岸

磯と磯の間の砂浜では貝がらなどが打ち上げられています。

波打ち際で岩場の海岸。潮が引いたあと海水が岩のくぼみに残り潮だまりができます。

さらさらとした砂の浜。干潟は、内湾で潮が引いたときに現れる砂泥や泥底の海岸。

### 砂浜・干潟

### 砂浜の海中

干潟の先の海中は少し深くなっていて、砂底になっています。

### 内湾

波がおだやかで奥行のある海岸。

### 河口

川が海に流れ込むところ。ヨシ原にはいろいろな生き物たちが潜んでいます。

### 漁港

漁船の本拠地となるところ。堤防では貝や魚などがみられます。

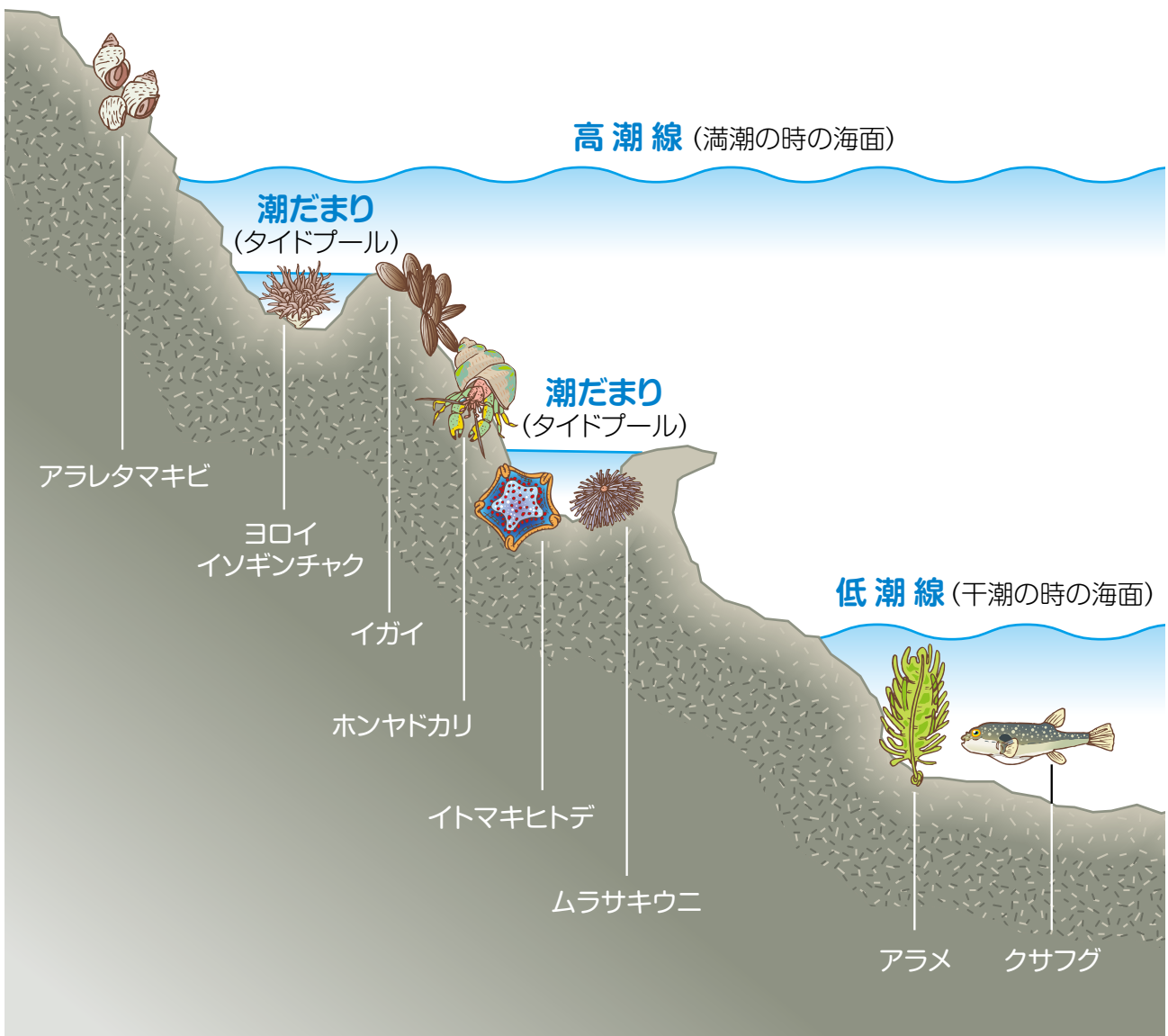
# 潮だまりを探検しよう

Exploring tide pools

## 潮だまりってなに？

海にいくと、岩や石がゴツゴツしているところや、サラサラとした砂があるところがあります。岩や石がたくさんゴツゴツしているところを「磯」、サラサラとした砂があるところを「浜」といいます。

海には、約半日のサイクルで、海水が陸にむかって押し寄せる、あるいは、沖へ引く「潮の満ち引き」があります。海水が沖に引いた時、ゴツゴツとした「磯」の中で、水たまりのように海水が残っているところを「潮だまり（タイドプール）」といいます。

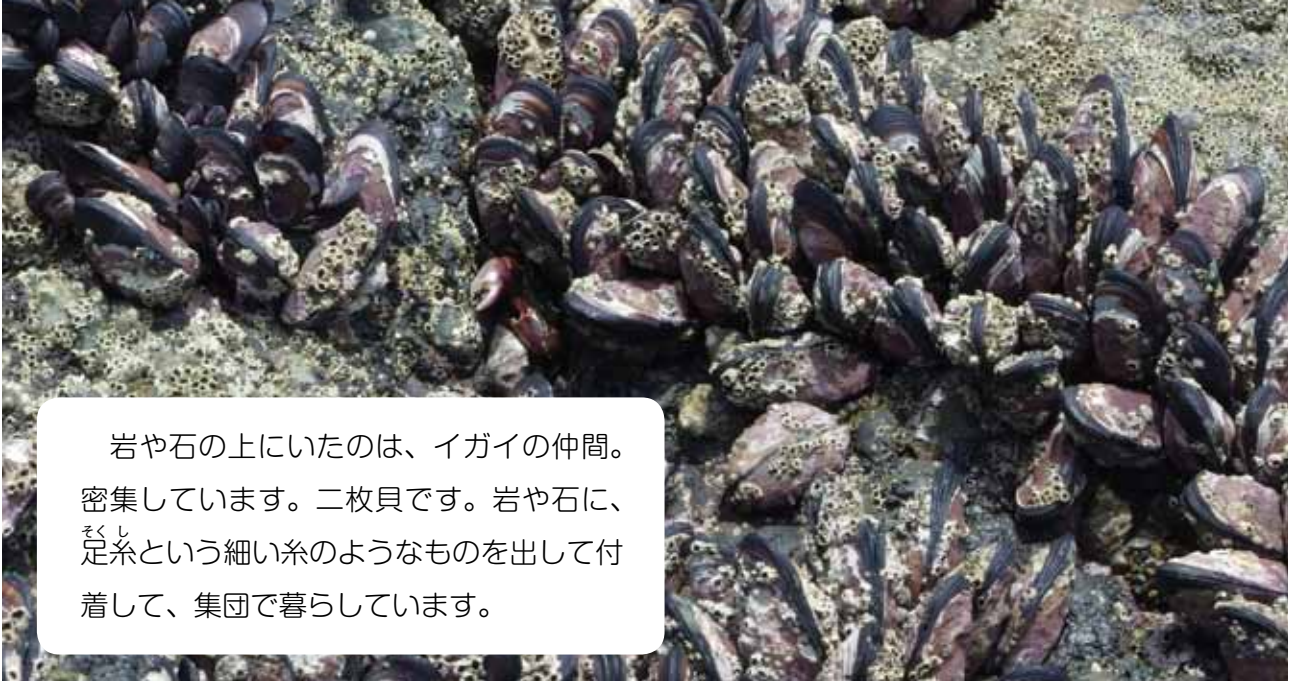


## 潮だまりには生き物たちが たくさんいるよ

ゴツゴツした岩や石は、生き物たちにとっては、敵から身を守る隠れ家になります。潮の満ち引きの差が最も大きい「大潮」のとき、ふだんは海面の下になっていてみることもできない、たくさんの潮だまりがあらわれます。潮だまりには、どんな生き物たちがいるか、探してみよう。



# 岩や石の上はどうだろう？ いがいが？ つんつん？ ぼこぼこ？



岩や石の上には、イガイの仲間が密集しています。二枚貝です。岩や石に、糸という細い糸のようなものを出して付着して、集団で暮らしています。



貝の表面をさわってみると、表面がごつごつしたイワフジツボの仲間がついているものがあります。

イガイたちの間を、もうちょっと探索してみよう。

硬い殻をもつ、10本足の生き物があります。ハサミを振り上げて威嚇しています。カニ類です。警戒心が強くて、とてもすばしっこい。イガイのすきまは小さなカニが隠れるのにちょうどいい大きさだったようです。





岩や石のくぼみはどうだろう？  
ころころ？ やまやま？ ねじねじ？

岩や石のくぼみにいたのは、巻貝たち。小さくてころころしているのは、タマキビやアラレタマキビ。海水につからないよう、岩の上のほうにいます。波しぶきがあたるしっとりしたところが好き。潮が満ちてくると、水面より高いところへ移動します。

タマキビの殻の表面は、なめらか。アラレタマキビは、ごつごつしている。岩や石に張り付いている藻類を食べて生きています。

なかには、イシダタミの姿も。よく触ると、殻の表面にはたくさんの溝が、縦、横にあり、表面の模様が四角形のように。この模様が、石畳に似ているから、この名がつけました。あまり海水につかっていないところでは、岩陰やくぼみで、潮が満ちてくるまで、じっと乾燥に耐えています。波打ち際には、活発に岩の表面のとても小さな藻類等を食べます。

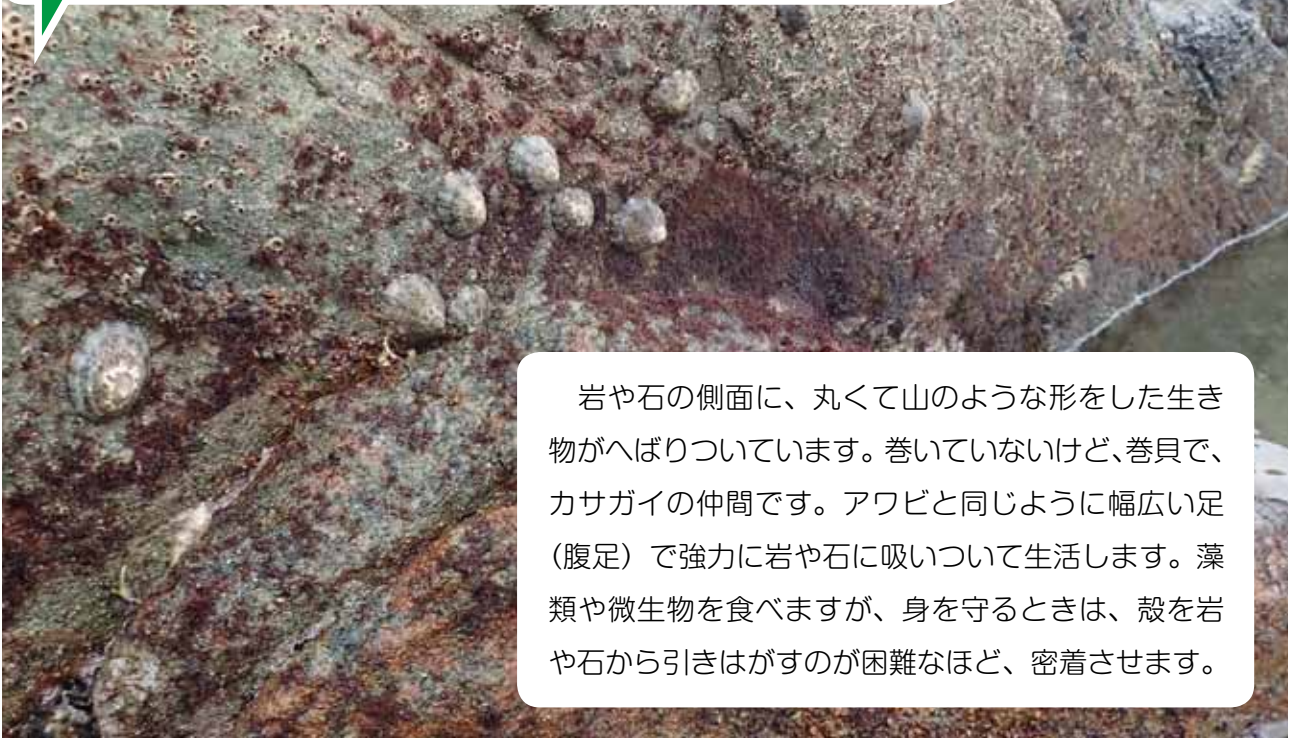


くぼみにいるのは、イシダタミだけではありませんでした。小さいけれど、なんだろう？5つ星のような形をしています。ヒトデです。

ほどほどの大きさかな？岩陰にかくれて身を守っています。

同じく、くぼみに隠れていたのは、たくさんのトゲトゲをもっている、ウニです。

## 岩や石の側面はどうだろう？ 平たい山だよ？ てっぺんちゃん



岩や石の側面に、丸くて山のような形をした生き物がへばりついています。巻いていないけど、巻貝で、カサガイの仲間です。アワビと同じように幅広い足（腹足）で強力に岩や石に吸いついて生活します。藻類や微生物を食べますが、身を守るときは、殻を岩や石から引きはがすのが困難なほど、密着させます。

## 岩や石のすき間はどうだろう？ ごっごっ？ ちくちく？



岩や石のすき間に生き物が、はまっています。よく触れると、体の上に小さな板のような殻が8枚ならんでいます。ヒザラガイです。ヒザラガイは、体の左右に対になった「とげ」があるものがあります。





ヒザラガイは夜行性で、動きは遅く、ゆっくりとはいまわりながら、藻類等を食べます。昼間は岩のすき間等でじっとしています。岩からはがすと、丸くなり、ダンゴムシのようです。丸々と、膝の皿のようになることから、この名がつけました。



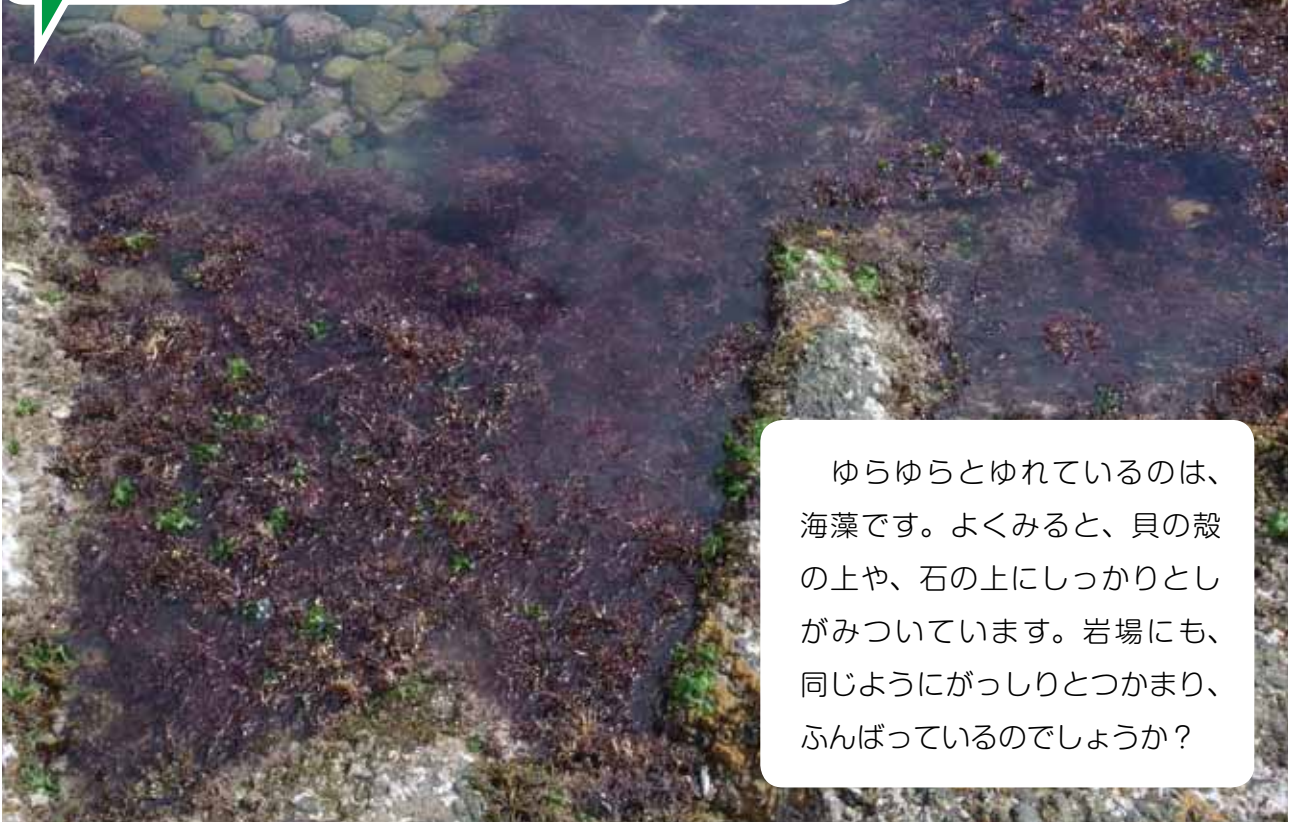
ポイント

カメノテの  
名前の由来

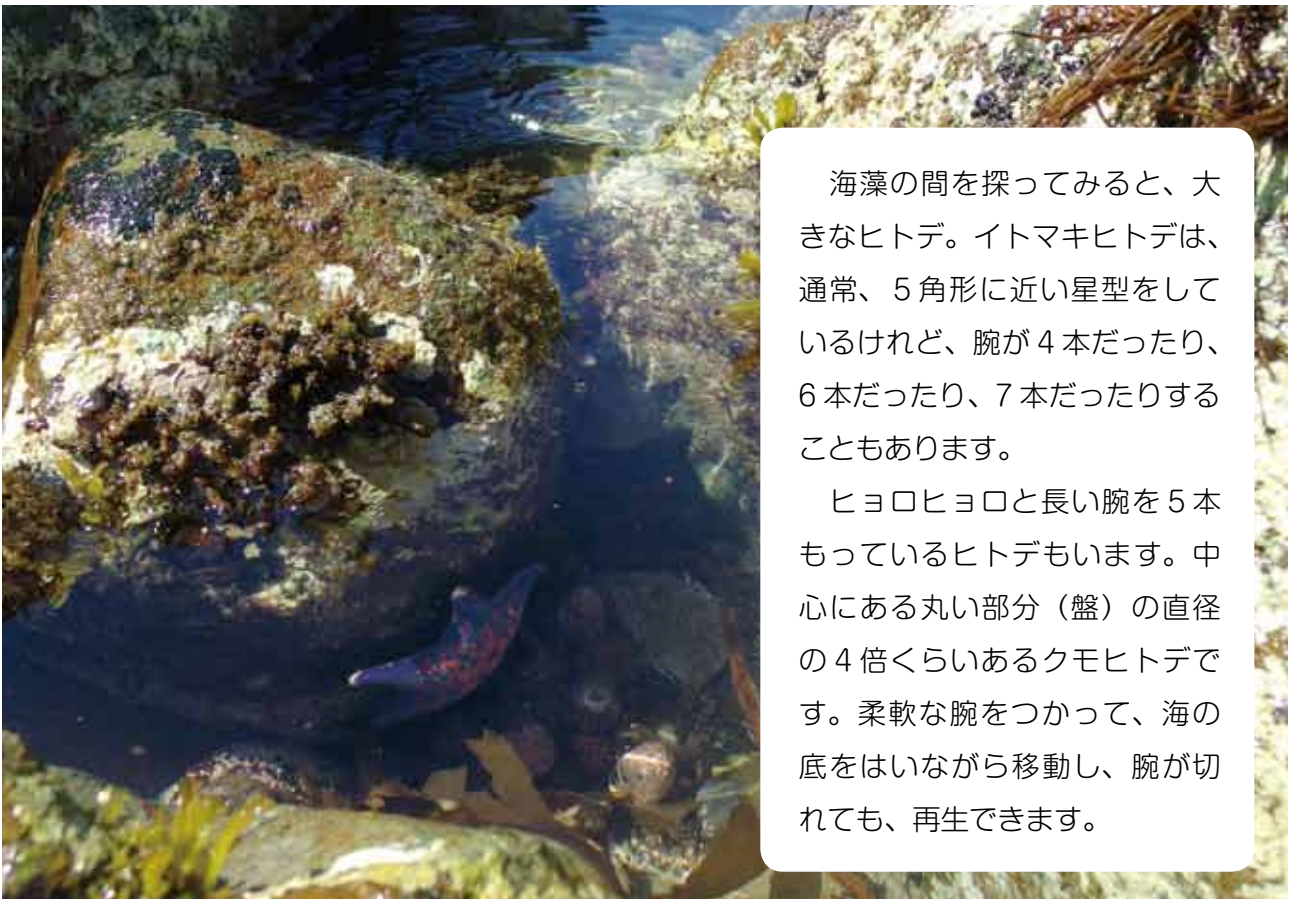
硬い殻の形が「カメ」の  
手足に似ているから

岩や石のすき間から、なにやらカメの手の爪のようなものが、によきによきでています。「カメノテ」です。「カメノテ」は、エビやカニなど甲殻類の仲間です。先端にとがった三角の硬い殻が二枚貝のように対になっているのが、さわるとわかります。潮が満ちて、海水の下になると、殻の間からまんきやく蔓脚をだして、餌をとります。

## 潮だまりの中はどうだろう？ たゆたゆ？ ゆらゆら？



ゆらゆらとゆれているのは、海藻です。よくみると、貝の殻の上や、石の上にしっかりとしがみついています。岩場にも、同じようにつながりつつかまり、ふんばっているのでしょうか？



海藻の間を探ってみると、大きなヒトデ。イトマキヒトデは、通常、五角形に近い星型をしているけれど、腕が4本だったり、6本だったり、7本だったりすることもあります。

ヒョロヒョロと長い腕を5本もっているヒトデもいます。中心にある丸い部分（盤）の直径の4倍くらいあるクモヒトデです。柔軟な腕をつかって、海の底をはいながら移動し、腕が切れても、再生できます。



あれ？ なにやら、せこせこと動いている巻貝がいます。よくみると、動いていたのは、貝ではなく、ヤドカリでした。ヤドカリは、自分が隠れる貝殻を背負って、移動します。普段は、貝殻から頭胸部（頭と胸にあたる場所）をだして歩き回っていますが、危険を感じると素早く殻の中に引っ込み、大きなハサミで殻の口に蓋をします。藻類や、生き物の死体などを食べます。ちなみに、ヤドカリは一生涯、同じ貝殻を背負っているわけではありません。成長にともない体が大きくなると、体の大きさにあった貝殻を探して、引っ越しをします。



小さな魚がすばやく泳いでいます。アゴハゼです。狙っているのは、小さな1 cm くらいのエビです。アゴハゼは大きくなっても、8 cm くらいの子供魚。頭が上から押しつぶされたように平たく、口が大きいのが特徴です。

気をつけよう。  
潮だまりでの生き物観察

！刺されないように！  
気をつけて



ハオコゼ

水深の浅い小さな潮だまりから深いところにいる魚です。海藻の中を手探りしているときに、刺されることがあります。背びれに毒のあるトゲがあり、刺されると痛く、傷口とそのまわりが腫れます。

(こども)



(おとな)



ゴンズイ

神奈川県立生命の星・地球博物館提供（瀬能 宏撮影）

小さいうちは、群れで浅瀬や潮だまりにいる魚です。  
胸びれと背びれに毒のあるトゲがあり、刺されると激しく痛みます。



ガンガゼ Photo: Michael Wolf



ラッパウニ Photo: Vincent C Chen

## ウニ

たくさんトゲをもっていて、岩の裂け目や、くぼみなどにいます。なかでも、長いトゲをもつ「ガンガゼ」というウニのトゲは、折れやすく、刺さると抜くのは難しいです。トゲには毒があり、刺されると炎症をおこします。また、短いトゲの間にラッパ状の叉棘（サキヨク：ウニ・ヒトデの体の表面にある特殊な小さなトゲで、ものをはさんだり、小動物をとらえたりすることができる）のある「ラッパウニ」は、刺されると激しい痛み、<sup>きんにくまひ</sup>筋肉麻痺、呼吸困難などを引き起こします。



## カツオノエボシ

「電気クラゲ」とも呼ばれるクラゲです。青いビニール袋のようにみえます。長く伸びた触手の部分に触れると、刺されます。毒はとても強く、激しい痛み、頭痛、吐き気、呼吸困難などを起こします。

写真提供：久保田 信



写真提供：久保田 信

**！ 刺されないように  
気をつけて ！**

## アカクラゲ

とても長い触手をもつクラゲです。死んでいても触手に触れたら刺されます。強い痛み、腫れを引き起こします。



写真提供：久保田 信

！岩、石、貝殻などに  
気をつけて！

潮だまりはごつごつした岩や石だけでなく、す  
るどくとがったカキの殻や、イガイの殻、トゲを  
もつウニなどがあるため、足や手を切るなど、け  
がをしないよう気をつけよう。かならず、はだし  
ではなく、ビーチシューズをはいていこう。



！気をつけよう、  
潮の満ち引き！

潮だまりで生き物観察をするのに適している時間は、最干潮（最も潮が引いたとき）の前後1時間  
くらいです。干潮をすぎて潮が満ち始めると、観察に夢中になっている間に、気がついたら海の中に  
取り残されたり、波にさらわれたりすることになりかねません。実際に、磯や潮だまりで生き物観察  
をするときには、あらかじめ潮汐表等で、潮の干潮の時刻を調べておくことが必要不可欠です。



協 力：群馬県立盲学校、  
神奈川県立生命の星・地球博物館、  
ミュージアムパーク茨城県自然博物館、  
京都大学瀬戸臨海実験所  
荒館 真理、瀬能 宏、久保田 信、  
池澤 広美、庄山 由美、高橋 綾  
船の科学館・海の学びミュージアムサポート

---

## 磯や潮だまりを探索しよう: Exploring Tide Pools

発行日：平成29年1月14日

発 行：群馬県立自然史博物館

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1

TEL 0274-60-1200（代表）

URL <http://www.gmnh.pref.gunma.jp>

---



群馬県立自然史博物館  
GUNMA MUSEUM OF NATURAL HISTORY